

# 第7章 日常生活

## 第1節

### 日常生活動作の状況

#### 1. 身体障害者

在宅の身体障害者（18歳以上）の日常生活動作の状況について、通常に加齢による影響を除く意味で70歳未満の者の状況を障害種別に食事、炊事、外出、日常の買い物の4つの動作を例に見ると、聴覚・言語障害では全体的に一人で行える者の割合が高く、会話を必要とする日常の買い物についても一人で行える者が8割を占めている。

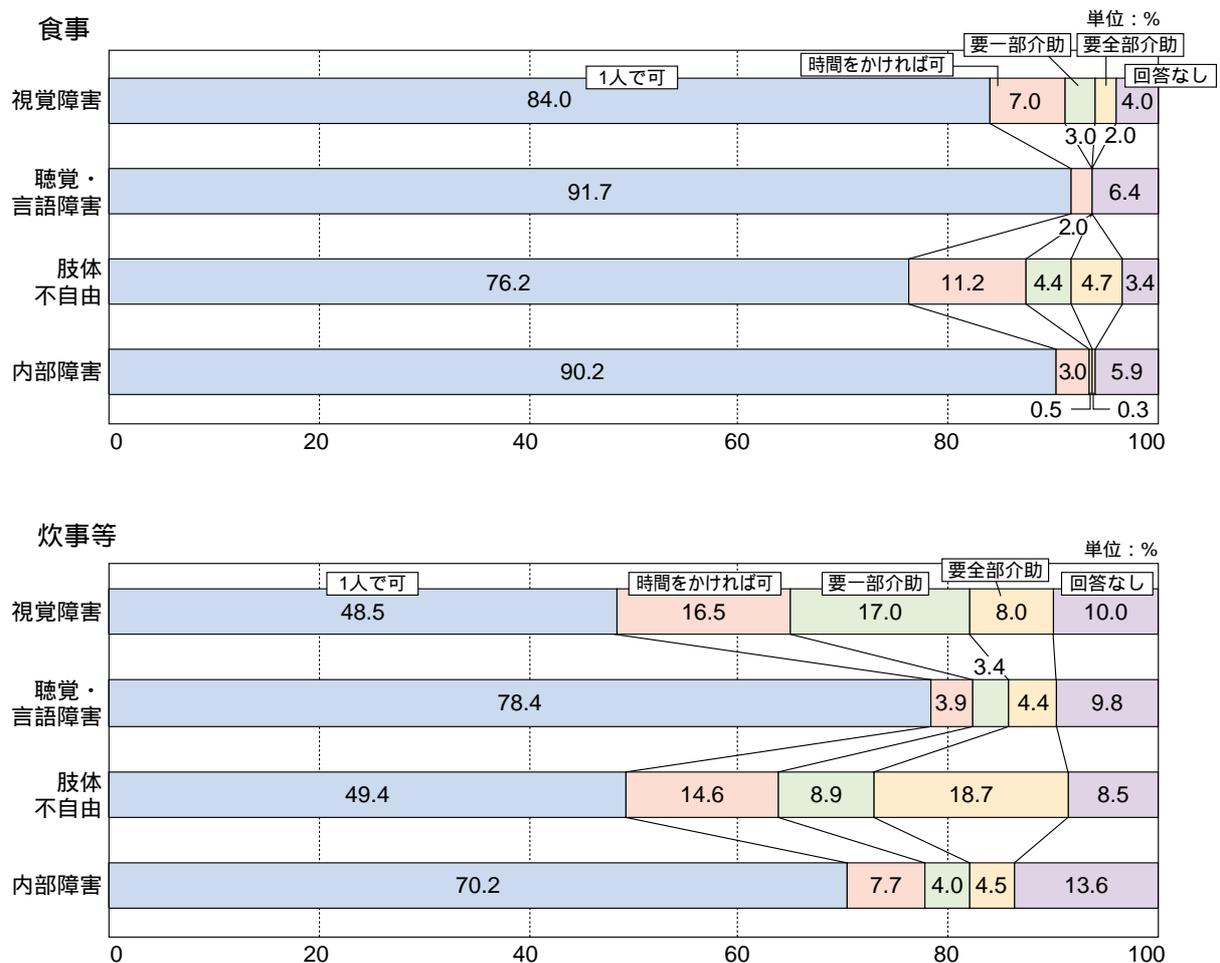
内部障害についても、聴覚・言語障害より若干低いものの、全体的に一人で行える者の割合が高い。

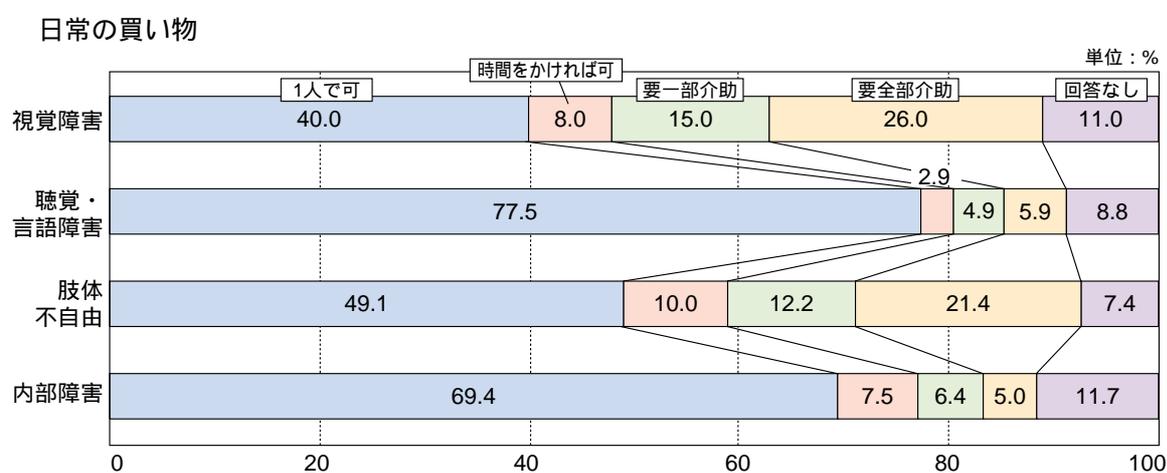
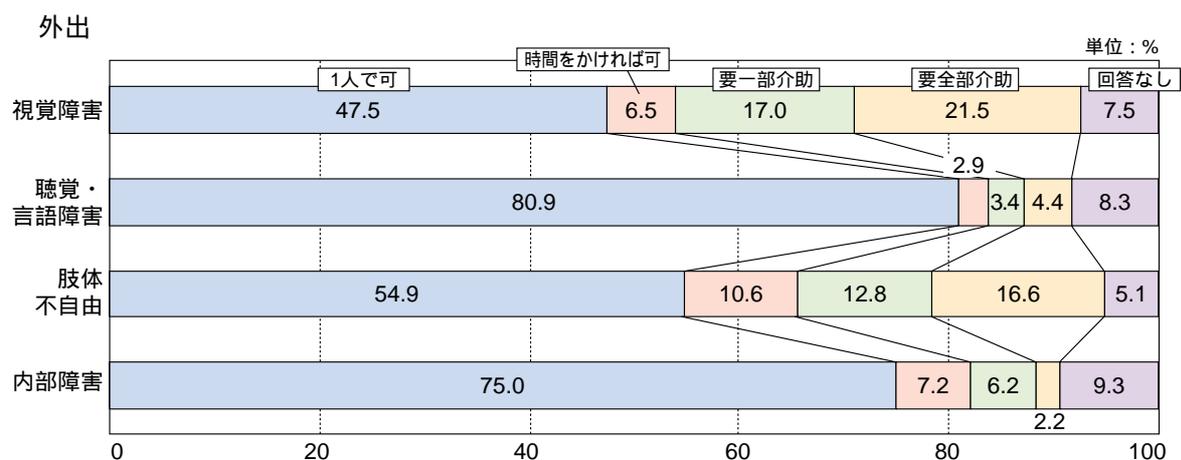
これに対して、視覚障害と肢体不自由では、食事は比較的一人で行える者の割合が高いものの、炊事や外出は一人で行える者の割合が低くなり、日常の買い物が一人で行える者の割合は、肢体不自由で6割、視覚障害では5割となっている。

#### 2. 精神障害者

在宅の精神障害者の自立度を見ると、食事の自立度は9割以上と高いものの、買い物は7割程度、炊事は5割程度の自立度となっている。

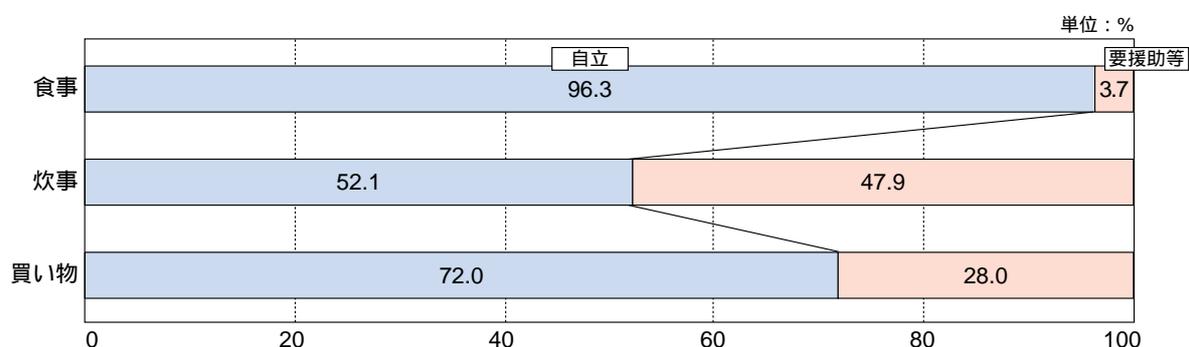
図表1-42 身体障害者（在宅・18歳以上70歳未満）の日常生活動作の状況





資料：厚生労働省「知的障害児・者実態調査」(平成13年)

図表1-43 精神障害者（在宅）の日常生活動作の状況



資料：厚生労働省「精神障害者社会復帰サービスニーズ等調査」(平成15年)